

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	7	課題区分	C	令和7年3月31日	
横断的な課題		林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収源の確保						
地域重点政策		林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収源の確保					木曽地域振興局	
実施機関		木曽地域振興局			担当課	所属	木曽地域振興局 林務課	
事業名		木曽地域木材産業振興対策推進事業				電話	0264-25-2225	
						E-mail	kisochi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	木曽地域の林業、木材産業の高付加価値化を推進し、地域産業としての成長を図る。						
	現状と課題	木曽地域は総面積の93%を森林が占める中で、近年、天然木曽檜が希少となっている一方で、高品質な人工林の木曽ヒノキやカラマツの資源は充実してきている。しかしながら、地域資源の利活用を支える林業や木材産業は、担い手の高齢化や後継者不足により年々事業者数や生産量が減少しており、様々な条件整備等は進めているものの、生産性向上や付加価値を高める体制づくりが立ち遅れ、未だに多くは原木のまま県外を中心に移出している現状にある。新たな事業展開に向けては、木曽檜ブランドの強みがある反面、古い意識体質や生産体制などの面で弱みともなっている。 一方で、人工林ヒノキやカラマツが利用期となっていることから、林業の生産性向上、木材製品の高付加価値化を進め、自立した産業として林業・木材産業の振興を図るとともに、林業大学校や上松技術専門校、木曽青峰高校等の林業・木工関係の教育機関とも連携により後継者育成・技術の伝承を進め、持続性・発展性が高い地域産業の振興を図る必要がある。 こうした中、林業・木材産業の高付加価値化を推進させ、戦略的な施策を展開させることを目的として「木曽地域木材産業振興対策協議会」を設置しており、令和5年度から5か年間の「木曽地域の林業・木材産業の高付加価値化に向けたロードマップ2023」に基づき、木曽産材の高付加価値化等を重点的・継続的に取組み、その有効活用を目指す必要がある。						
	内容 (変更後の内容)	1 協議会の開催 ・学識経験者、木材関係団体代表等による木曽地域木材産業振興対策協議会を、令和7年2月に開催し、しあわせ信州創造プラン3.0木曽地域計画の「林業・木材産業の振興」の達成に向け、地域の課題解決のためのロードマップの進捗管理、課題の検討等を行った。 2 効果的な流通に必要な原木仕分実証(継続) ・ロードマップに基づき、専門家のアドバイスを仰ぎながら、R4に導入した簡易強度測定器を活用した原木仕分けの実証を行い、流通の効率化、・低コスト化に取り組んだ。 ・木祖村葦原の木曽官材市売協同組合の葦原土場で実施。カラマツ丸太30本の強度検査を実施し、長和町の齋藤木材株式会社に納材。齋藤木材株式会社でも製材した板の強度検査しており、データ提供もあるため、調査結果などの考察を林業総合センターでまとめた。 3 高品質製材のためのJAS認証工場を核とした地域製材工場の水平連携の体制づくり ・木曽地域の水平連携の構築に向けて、関係者から意見を聴取した。また、木曽町開田支所建設に関して管内5つの製材工場で一次加工し、JAS認証工場である勝野木材で仕上げ、47㎡のJAS認証材を納材した。 4 展示会への出店・普及啓発 ・新たな木材需要を喚起するため、令和6年12月に東京ビックサイトにおいて全国規模で開催される、国産木材の可能性と未来を探る木の展示会「ウッドコレクション2024プラス(モクコレ)※日本各地の地域材を活用した建材や家具などの木材製品展示商談会」に出展し、木曽産材及び製材品等の啓発活動を展開する。同時に製品販売も行い、木曽の木材の魅力発信に繋げた。 ・上松技術専門校からも職員が参加することにより、木曽の木材製品の販路拡大の可能性を探るだけでなく、上松技術専門校のPRのほか訓練生の卒業後の進路の可能性についても研究する。 ・当初から計画した首都圏(上記12月モクコレ)に加え、上下流交流で木曽地域と繋がり深い中京圏で開催される展示会(3月名古屋駅コンコース)において、木曽産木製品や木曽谷・伊那谷フォレストバレーに係る学校等のPR活動を追加実施し、木曽地域の木材や林業等の教育機関の魅力発信を行った。 5 民国連携による情報発信 ・民国で連携して様々な媒体を使って林業・製材業、地域材について広く情報発信を行い、地域の活性化を図るため、木曽地域の地元情報誌「木曽人」を活用し、取組、活動等の記事を掲載、一般の方などへも広く発信する。 ※「木曽人」…木曽郡内の役場や道のえきなどの公共施設等及び学校関係者に配架、配布されているフリーペーパー。3ヶ月に1回、毎号1万部を発行している。A5サイズで写真等ふんだんに掲載されており、気軽に手に取りやすく、多くの地元の人や観光客等にも興味を持って読まれている。						
事業期間		令和6年11月 ～ 令和7年3月						
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額		備考	
	1 木曽地域木材産業振興対策協議会の開催		・進捗管理 ・課題検討		51,607		報償費 42,800円 ・費用弁償 8,807円	
	4 展示会による啓発活動		・展示会への出展 ・全国を対象とした啓発活動		365,482		使用料 59,250円・旅費 172,890円・費用弁償 133,342円	
	5 民国連携の情報発信		フリーペーパー木曽人への掲載		220,000		掲載料(100,000円×2回×1.1) 220,000円	
		合 計		637,089				
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況
	地域材を製材加工した製品出荷量(R5実績 12,378m³)			12,978m³		12,396m³		○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成
績・事業成果		・カラマツ活用戦略会議の開催、戦略指針策定により、木曽のカラマツ材の生産拡大・活用を図ることができた。 ・モクコレ2024Puls、名古屋駅コンコース展示などにより木曽産木製品をPRすることで、販路拡大を図ることができた。 ・木曽町開田支所の建設にあたり、管内5製材所が水平連携を取って、JAS認証材を納材することができた。 ・フリーペーパー「木曽人」に木曽の林業について、管内に広くPRすることができた。						
今後の方向性		・カラマツ戦略指針に基づき、主伐・再造林を進め素材の供給を増加させるとともに、建設予定の合板工場への木材供給を図ることで、木材の高付加価値化をめざす。 ・県民参加型予算事業で作製した製品や木曽産木製品を販売することで、木曽の木材産業の振興を図る。						